

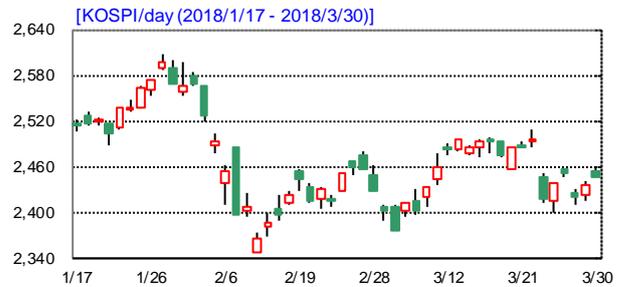


【韓国】 総合指数は週間で 1.2%高と反発、今週は主要経済指標の発表相次ぐ

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.2%高と反発。前週末の株価急落の後で買い戻しが優勢だった。週前半は米国と中国の通商問題への過度な懸念が後退する中、主力株を中心に押し目買いが入る展開。週中に米株式市場でハイテク株が大幅安となった影響を受けて、国内でもハイテク株が売られる場面がみられたものの、29日に南北首脳会談の開催合意が発表されると、朝鮮半島情勢の緊張緩和への期待から再び上昇に転じた。終盤の30日は続伸。ただ、週を通じて 2450 ポイント付近では上値が重かった。今週は後半にかけて米国で貿易統計や雇用統計などが発表されるのを控え、米中通商問題や米国景気を念頭に置いた神経質な値動きとなるか。国内でも3月の貿易統計、製造業 PMI、CPI など主要経済指標の発表が予定されている。

▼指数チャート

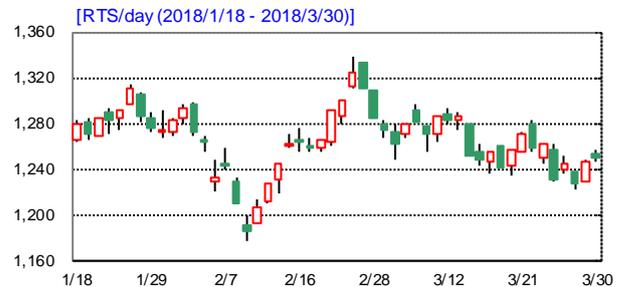


【ロシア】 RTS 指数は週間で 1.0%安と反落、今週は西側諸国との緊張緩和に期待

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 1.0%安と反落した。ロシアと西側諸国との関係悪化が嫌気された。週明け 26 日は 2.4%安と軟調スタート。英国でロシアの元スパイが神経ガスで殺害されそうになった事件をめぐり、トランプ米大統領が米国駐在の外交官など 60 人のロシア人の国外退去を命じ、シアトルのロシア領事館を閉鎖した。これに対してロシアも報復措置を取ったことで通貨や株式が下落。その後は原油相場の上昇などを好感し、買われる場面もあったが、原油相場が反落すると株価も再び下落に転じた。他の西側諸国がロシア外交官の国外退去を命じたことも上値を抑えた。30日はロシアがこれ以上の西側諸国との関係悪化を望まないとの観測を受け、小幅に上昇して終了した。今週は西側諸国との緊張緩和が相場の支援となるか。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で 1.8%高と 7 週続伸、今週は堅調持続も上値重く

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.8%高と 7 週続伸。米中の貿易戦争への懸念が和らぎ、安心感が広がった。指数は週明け 26 日に続伸してスタート。不動産のビングループの大幅高にもけん引され、前週に続き史上最高値を更新した。翌 27 日も続伸し、指数は前週末比 2.9%高の 1187.42 ポイントまで上値を伸ばした。ただ、その後は高値警戒感の高まりから利益確定売りが上値を抑え、週末までもみ合いが続いた。29日に発表された 1-3 月期 GDP は前年同期比 7.38%増と第 1 四半期としては過去 10 年で最も強い結果となったものの、指数は前日比 0.4%安と下落している。3 月月間では 4.7%高で、第 1 四半期では 19.3%高。今週は良好なセンチメントを背景に堅調持続が予想されるも、利益確定売り圧力の高まりが上値を抑えるか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%安、今週は 6200 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.3%安と 5 週続落。3 月月間では 6.2%安。先週は重要イベントが少ない中、一進一退を繰り返した。週前半は小幅な値動きで推移したが、28 日は前日の米株相場がハイテク株の値下がりによって下落した影響を受け、前日比 1.1%安と反落。終値ベースで 6200 ポイントを割り込み、約 3 カ月ぶりの安値を更新した一方、29 日は金融株が指数上昇をけん引し、反発して連休前の取引を終えた。今週は 2 日に発表される 3 月の CPI 上昇率などに対する市場の反応が焦点。外部要因では、29 日の NY ダウが翌日からの連休を前に反発したことが株式相場の追い風になるか期待される。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%高、今週は 3 月の製造業 PMI に注目

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 0.2%高と反発。3 月月間では 2.6%安。先週は連休前の反発が指数を支えた。週初の 26 日は、2 月の鉱工業生産が前年同月比 8.9%増と市場予想を上回ったものの買い材料にならず、指数は 4 営業日続落。一方、27 日は貿易戦争回避に向け、米中が交渉を開始したことが好感されて反発したが、28 日は米株相場が下落した影響で前日比 1.6%安と反落した。29 日は 2 月の銀行融資残高が 3 カ月ぶりに増加に転じた効果で金融株が買われ、終値ベースで 1.3%上昇して引けた。今週は 2 日の取引終了後に 3 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 52.7 を上回るかが焦点。

▼指数チャート

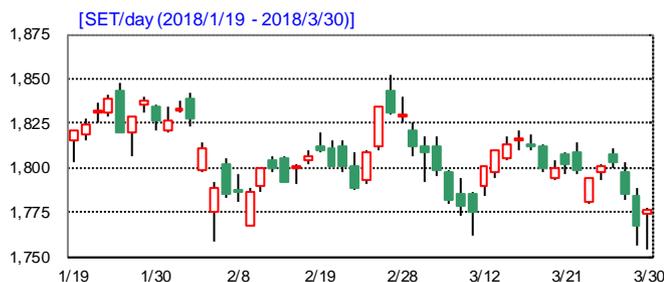


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%安、今週は 3 月の 3 月の日経 PMI と CPI 発表

SET 指数は週間で 1.0%安と続落。3 月月間では 2.9%安。先週は前半に 1800 ポイントを回復したが、その後の下落が痛手だった。週初の 26 日は 3 営業日ぶりに反発してスタート。27 日も続伸したが、28 日は消費関連株が売られて、指数は終値ベースで前日比 1.0%下落し、1800 ポイントを割り込んだ。同日に発表された政策金利は 23 会合連続で 1.50%に据え置かれた。その後、29 日はタイ石油公社 (PTT) やタイ空港公社が値下がりし、前日からさらに 1.0%下落したが、30 日は反発している。今週は 2 日に発表される 3 月の CPI 上昇率などに対する市場の反応が焦点になる。6 日はチャクラー記念日のため休場。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、今週は 5 日に 2 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安とわずかながら 3 週ぶりに反落。3 月月間では 0.4%高。先週は経済指標の発表が少ない中、小幅なレンジでもみ合った。27 日は 3 営業日ぶりに反発したものの、28 日は前日の NY ダウが反落したことに加え、中国が報復関税の対象となる米国製品リストを近く公表すると報じられたことが嫌気されて反落。29 日も続落したが、30 日は機関投資家による 1-3 月期末のお化粧品買いで政府系企業が指数上昇をけん引し、反発して引けた。今週は 5 日に 2 月の貿易統計が発表される予定で、市場予想では輸出額の伸び率は前年同月比 6.5%。これを上回れば好材料になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。